實相寺花園会報

平成三十年
四月一日発行
発行所
臨済宗妙心寺派
陽明山　實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087−889−3838
編集発行人
山本文匡
http://www.jissouji.net
第109号

「随処作主」

筆　妙心寺管長　山田無文老大師

（明治三十三年～昭和六十三年）

本年度の推進テーマでもあるこの言葉は『臨済録』が出典です。臨済禅師（？～867）は弘法大師（774～835）とほぼ同時代の人ですが、空海の入唐後（804～806）、会昌の廃仏（842）で寺院や経典は焼かれます。その後に台頭したのが経典に依らない禅宗でした。随処作主とは自らを拠り所とする禅の教えです。

北側道路拡幅終了

先月お知らせした實相寺の北側の道路拡幅工事ですが、ご覧のように現在は未舗装ながら用水路の移設も終わり、従来の2倍にあたる4メートル幅の道路になりました。舗装工事は埋め立てた地盤が落ち着くまで、少し期間を置いて実施されるのだと思います。

お施餓鬼に来られる際は西側からも通れますし、東側から車で送って貰う場合は西に出る方が混雑も緩和されると思います。

三春　滝桜の接ぎ木苗

先月、東日本大震災物故者慰霊と福島県の復興を目的に、全国の寺院に苗木を贈られている「福島桜2107４実生植樹会」より、福島県三春町にある滝桜の接ぎ木苗が十本寄贈されました。

そのうち五本は県内の五ヶ寺にお渡ししましたが、残り五本は当山の境内に植樹するために現在鉢植えにしています。

今年中にしかるべき場所を決めて整備し、植樹したいと考えていますが、お手伝い頂ける方は宜しくお願いします。

随処に主と作る③

「おかげさまの心
ーいつでもどこでも仏さま　随処作主ー」

おかげさまで先月17日から24日まで、丁度お彼岸中に宇和島・西予市・八幡浜など十ヶ寺を巡教して無事戻りました。その途中、丁度八幡浜に居る時に「八幡浜市の空家率は愛媛県で2番目」というニュースを見ました。しかしこれは八幡浜だけの状況ではありません。今や地方は全国どこでも過疎化が進んでいます。

いやこれからの時代、大変なのは地方だけではありません。所謂団塊世代は日本の人口の1割近くを占めますが、その3割は首都圏に暮らしています。殆どが高度成長期に仕事を求めて上京した地縁のない人々ですから、退職してしまうと社会との繋がりが希薄になります。今後は都市部でも高齢者の貧困や孤独死などが社会問題になるでしょう。

また現在でも社会保障費は国家予算を超える額が使われており、年金の受給年齢や受給額も見直されることは必至です。客観的な状況だけを見ていると、とても未来に明るい材料はありませんが、果たして大変なのは私達だけでしょうか？

今年は明治維新から百五十年、昭和十八年から七十五年ですが、恐らく明治の人達も、戦時中の人達も、将来が見通せない不安の中に生きていたと思います。しかしその大変な時代をしっかりと生き抜いてくれた先人達が居てくれたからこそ、今の私達が存在するのです。そう考えると人生はいつの時代も「一寸先は闇」ですが、その暗中模索する人生を、どう生きていくべきかを説いている教えが「随処作主」だといえます。

先月、東日本大震災から七年ということで、様々な被災地の様子を伝える番組がありました。その中で、震災で夫も子供も両親さえも失った一人の女性が、仕事に打ち込むことで寂しさを紛らわしている様子が伝えられました。彼女は「昼間は良いけど、夜になると家族のことを思い出して辛い」と話していました。

彼女の悲しみは私などの想像の及ぶ所ではありません。しかし、そんな彼女でもお腹が減った時は「お腹が空いた」と思うことでしょう。寒い夜、お風呂に入った時は「温かくて気持ちいいな」と思う筈です。つまり人間は二つのことを同時には考えられないのです。

恩師でもある松原哲明師に「悩みを抱えていては、悩みは消えない。抱えていて離さないのだから。悩みをなくすためには、悩みを捨てるしかない」という言葉があります。

禅宗ではよく「成り切れ」といいますが、何に成り切るのかといえば「今の自分」にです。食事をする時には食事に集中し、お風呂に入る時はお風呂に集中する。働く時は精一杯働き、休む時には充分に休む。これが「成り切る」ということであり、「随処に主と作る」ということなのです。